

2023年度 環境経営レポート

（対象期間：2023年9月1日～2024年8月31日）



2023年4月 洲本市 五色近海（魚礁効果調査）にて撮影



オリエンタル・テクノ株式会社

発行日：2024年 10月 31日

目 次

1. 会社の概要	・・・	P 2
2. 主な環境負荷の実績	・・・	P 2
3. 対象範囲（認証・登録範囲（予定））	・・・	P 3
4. 推進組織図及び役割・責任・権限	・・・	P 3
5. 環境経営方針	・・・	P 4
6. 環境経営目標	・・・	P 5
7. 環境経営計画	・・・	P 6
8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と その評価、並びに次年度の環境経営計画	・・・	P 7～P 8
9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	・・・	P 8
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	・・・	P 9

1. 会社の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

オリエンタル・テクノ株式会社
代表取締役 西畠 泰司

(2) 所在地

本 社 兵庫県たつの市御津町苅屋1203番地8
南あわじ営業所 兵庫県南あわじ市湊988番地

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 営業所長
環境管理担当者 管理課員
連 絡 先 TEL: 0799-36-4840
FAX: 0799-36-3668

(4) 事業の概要

土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、
しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業、解体工事業、海洋環境調査業務

(5) 事業規模

年間売上高 327百万円(2023/9月～2024/8月)

	本社	南あわじ営業所	資材倉庫		合計
総従業員 2024.10.15現在	3人	10人	0人		13人
延べ床面積	53.19㎡	132.38㎡	77.27㎡		262.84㎡
敷地面積	53.19㎡	1095.33㎡	1667.99㎡		2816.51㎡

(6) 建設現場等の概要 (2023/9～2024/8)

元請工事 6件 コンサル業務 41件
下請工事 6件

(7) 会計年度 9月～翌年8月

2. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	全社排出量		
		2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	25848.01	36193.00	21734.24
廃棄物排出量	トン	707.39	45.80	10736.7
一般廃棄物	トン	0.47	1.30	0.4
産業廃棄物	トン	706.92	44.50	10736.3
水使用量	m ³	74.27	71.60	78.84

使用した電力の二酸化炭素排出係数:

2022年度は0.311 kg-CO₂/kWh(関西電力、2021年度の調整後排出係数)を使用

2023年度は0.434 kg-CO₂/kWh(関西電力、2022年度の調整後排出係数)を使用

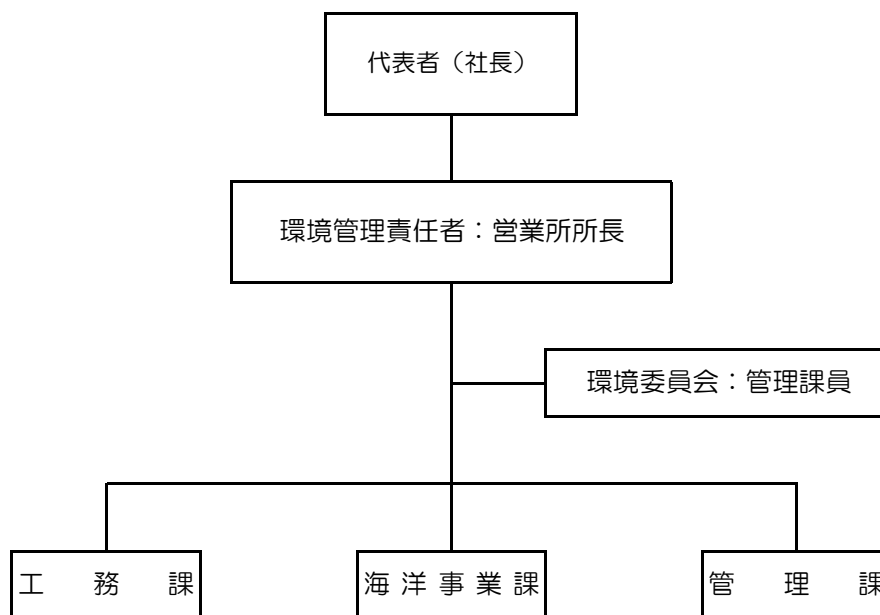
3. 対象範囲：本社、南あわじ営業所、資材倉庫

事業活動： 土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業
塗装工事業、水道施設工事業、海洋環境調査業務

対象事業所： 本社、南あわじ営業所・資材倉庫

4. 推進組織図及び役割・責任・権限

【推進組織図】



【役割・責任・権限】

	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者(社長)	①代表者として環境経営全般に関して責任と権限をもつ ②環境経営方針を策定し、従業員に周知させる ③環境経営目標、環境経営レポートを承認する ④資源（人・もの・金）の用意をする ⑤エコアクション21全体の取組状況に関し評価、見直し・指示を実施する
環境管理責任者	①エコアクション21建設業向けガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境面の実績を向上させる ②上記の結果を社長に報告する ③EA21文書類の承認をする ④環境委員会の委員長としてEMS全般の舵取りを行い、実行を推進する
環境委員会 管理課員	①EA21環境経営システムを構築し、文書化し、実行を推進する ②環境への負荷の自己チェックを実施する ③環境への取組の自己チェックを実施する ④環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する
部門長及び 全従業員	①自部門の環境目標、環境活動計画の達成と実績の把握を行う ②環境方針、自部門の環境目標、環境活動計画を部門全員に周知する ③自部門に関連する環境関連法規制等を順守する ④自部門の教育・訓練を実施する ⑤社内外の環境情報の収集と伝達をする ⑥自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する
作業所長	①作業所におけるEA21実行責任者を兼ねる ②作業所の環境目標、活動計画の達成と実績の把握を行う

5. 環境経営方針

オリエンタル・テクノ株式会社 環境経営方針

当社は、事業活動において地球環境への影響を理解すると共に、環境負荷の継続的な低減に努め、従業員一丸となって自主的かつ積極的に環境への取り組みを行います。

1. 当社は下記のとおり、事業活動に伴う環境負荷の低減、並びに工事施工時における環境配慮に努めます。
 - (1) 電力及び燃料の使用による二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 水使用量の削減
 - (3) 廃棄物排出量の削減
 - (4) 環境に配慮した工事の推進
2. 関係する環境法規等並びに地元との約束等を遵守します。
3. 環境経営の継続的改善を図ります。
4. 本方針を全従業員及び協力会社社員に周知し、社外へも公開します。

制定日：2022年 4月 1日

オリエンタル・テクノ株式会社

代表取締役 西 畠 泰 司

6. 環境経営目標

No.	環境経営目標	基準年度 2020年度実績		2023年度目標		2024年度目標		2025年度目標	
1	電力使用量の削減 (本社) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.434	7,600	kWh	-3%	7,372	-4%	7,296	-5%	7,220
		3,298	kg-CO ₂		3,199		3,166		3,133
2	電力使用量の削減 (工事現場) ※1 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 0.434	535	kWh	-3%	519	-4%	514	-5%	508
		232	kg-CO ₂		225		223		220
3	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.32	3,145	ℓ	-3%	3,051	-4%	3,019	-5%	2,988
		7,296	kg-CO ₂		7,077		7,004		6,931
4	重機燃料使用量の削減 軽油 (排出係数) (CO ₂ 排出量削減) 2.58	4,413	ℓ	-3%	4,281	-4%	4,236	-5%	4,192
		11,386	kg-CO ₂		11,044		10,931		10,817
5	二酸化炭素排出量の削減	22,212	kg-CO ₂	-3%	21,546	-4%	21,324	-5%	21,101
6	産業廃棄物の削減 (リサイクル率向上)	98.9 ※2	%	+0.3 (%)	99.1	+0.4 (%)	99.2	+0.5 (%)	99.3
7	一般廃棄物排出量の削減	1144	kg	-3%	1110	-4%	1098	-5%	1087
8	水使用量の削減	60	m ³	-3%	58	-4%	58	-5%	57
9	問題発生を未然に抑える 取組の推進 ※3	—	%	評価ポイント 91ポイント(%) 以上		評価ポイント 92ポイント(%) 以上		評価ポイント 93ポイント(%) 以上	

(注) 化学物質は使用していないため、目標に設定していない。

※1 電力の二酸化炭素排出係数：0.434 kg-CO₂/kWh（関西電力、2022年度の調整後排出係数）

※2 産業廃棄物のリサイクル率の向上；再生量(292t)÷発生量(295t)＝98.9%

※3 請け負った工事ごとに、現場代理人が「騒音・振動」、「水質汚濁」、「大気汚染」、「建設廃棄物」に関する取組を項目ごとに点数評価し、下記の計算式でポイントを算出する。

ポイント（％）＝100×工事数×評価点数（実績）/工事数×評価点数（満点(4)）

7. 環境経営計画

No.	環境経営目標	環境経営目標の達成手段	スケジュール					実施体制 (責任者)
			全期	春期	夏期	秋期	冬期	
1	電力使用量の削減 (本社) (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定(夏期:28℃、冬期:20℃)			○		○	環境管理 責任者
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
		4.離席時のパソコン電源OFF	○					
2	電力使用量の削減 (工事現場) (CO ₂ 排出量削減)	1.空調機の温度設定(夏期:28℃、冬期:20℃)			○		○	工務課 係長
		2.昼休みの消灯 3.不要照明の消灯	○					
3	自動車燃料使用量の削減 ガソリン (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					海洋事 業課 担当者
		3.法定速度の順守 4.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
4	重機燃料使用量の削減 軽油 (CO ₂ 排出量削減)	1.アイドリングストップの徹底 2.急加速、急発進の防止	○					工務課 係長
		3.法定速度の順守(ダンプ、トラック)	○					
		4.相乗りの励行(ダンプ、トラック)	○					
		5.タイヤ空気圧の定期的点検	○					
		6.過度な負荷をかけないアクセルワーク(重機)	○					
5	二酸化炭素排出量の削減	・NO.1～4 に従う						
6	産業廃棄物の削減 (リサイクル率向上)	1.建設廃棄物の分別徹底	○					工務課 係長
		2.不法投棄、不法処分リスクの無い処理業者への委託	○					
		3.保管基準の順守	○					
7	一般廃棄物排出量の削減	1.リサイクルを意識した一般ごみの分別	○					環境管理 責任者
		2.コピー紙の裏紙使用	○					
		3.詰め替え容器のある商品の選択	○					
8	水使用量の削減	1.水の流しっぱなしの防止	○					環境管理 責任者
		2.節水ステッカー貼付による節水意識の向上	○					
9	問題発生を未然に抑える 取組の推進	・ 請け負った工事ごとに、「騒音・振動」、「水質汚濁」、「大気汚染」、「建設廃棄物」について、適切な取組を実施(低騒音型重機使用、沈砂池の設置、排ガス第3次規制対応車使用、特定建設資材の100%リサイクルなど)	○					工務課 係長

8. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価、並びに次年度の環境経営計画

No.	環境経営目標 (環境経営方針との関連)	環境経営計画に基づき 実施した取組内容	評価 ※4	環境経営計画の実績 (2023年9月～2024年8月)			次年度の 環境経営計画	
1	電力使用量の削減（本社） (CO ₂ 排出量削減)	・昼休みの消灯	○	単位	kg-CO ₂		エアコンの使用率が高かった	部分消灯にも気を付けるようにしていく
		・空調設定温度の励行	○	目標	2,317			
		・部分消灯及びこまめな消灯	△	実績	4,205			
		・離席時のパソコンOFF	△	達成率	55	%		
				達成状況	※5 ×			
2	電力使用量の削減（工事現場） (CO ₂ 排出量削減)	・空調設定温度の励行	○	単位	kg-CO ₂		8月まで使用はなく電力の削減に取り組めた	引き続き実施を継続していく
		・部分消灯及びこまめな消灯	○	目標	163			
		・離席時のパソコンOFF	○	実績	37			
			達成率	441	%			
			達成状況	○				
3	自動車燃料使用量の削減（ガソリン） (CO ₂ 排出量削減)	・急発進の防止	○	単位	kg-CO ₂		島外の現場があり長距離のため増えた	定期的な空気圧の点検に取り組みたい
		・アイドリングストップ	○	目標	7,150			
		・相乗りの徹底	△	実績	12,905			
		・適正空気圧の確保	△	達成率	55	%		
			達成状況	×				
4	重機燃料使用量の削減（軽油） (CO ₂ 排出量削減)	・アイドリングストップ	○	単位	kg-CO ₂		重機は取り組み内容を実施できた	引き続き実施を継続していく
		・作業内容に応じたアクセルワークの実施	○	目標	11,158			
			実績	4,586				
			達成率	243	%			
			達成状況	○				
5	二酸化炭素排出量の削減 ※1	No.1～No.4 に記載		単位	kg-CO ₂		No.1～No.4 に記載	No.1～No.4 に記載
				目標	20,788			
				実績	21,734			
				達成率	96	%		
				達成状況	△			
6	産業廃棄物排出量の削減 ※2	・建設現場での分別強化	○	単位	%		現場での分別の取り組みが達成出来た	引き続き実施を継続していく
		・金属くずの分別ボックス新設	○	目標	99.1			
			実績	99.99				
			達成率	101	%			
			達成状況	○				
7	一般廃棄物排出量の削減	・コピー用紙の裏紙使用	○	単位	kg		個々の心がけで達成率が向上した	引き続き実施を継続していく
		・一般廃棄物分別の徹底による再資源化の推進	△	目標	1121			
			実績	366				
			達成率	306	%			
			達成状況	○				
8	水使用量の削減	・水の流しっぱなしの防止	○	単位	m ³		現場での利用があったため実績数が増加した	節水を意識して使用していく
		・節水ステッカー貼付	○	目標	59			
		・節水意識の向上	△	実績	78.84			
			達成率	75	%			
			達成状況	×				

9	問題発生を未然に抑える取組の推進 ※3	・工事における下記の環境配慮活動の実施		単位	%		騒音・振動対策型の機器を使用し排ガス対策の重機の使用で目標を達成した	引き続き環境対策型の機器や重機を使用していく
				目標	91			
				実績	100			
		(1)騒音・振動の低減	○	達成率	110	%		
		(2)水質汚濁の防止	○	達成状況	○			
		(3)大気汚染の防止	○					
		(4)建設廃棄物のリサイクル	○					
実施体制		・実施体制（環境管理責任者、環境委員会並びに各目標ごとに設定された実施責任者）は有効に機能しており、これを継続する						

※1 灯油の値は含まれていない。（使用量が少ないため、目標に設定していない）

※2 産業廃棄物のリサイクル率の向上(実績)； $100 \times \text{再生量}(10,735\text{t}) \div \text{発生量}(10,735\text{t}) = 100\%$

※3 問題発生を未然に抑える取組；ポイント（%） $= 100 \times 52\text{点（実績）} / 52\text{点（満点）} = 100\%$

※4 評価

※5 達成状況：

○目標達成（100%以上）、△目標やや未達成（80%～100%未満）、×目標未達成（80%未満）

9. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

（1）当社に適用される環境関連法規等の遵守状況

下記の通り環境関連法規及び条例等を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。また関係当局より違反等の指摘もありません。

適用される法令等		主な遵守すべき内容 ※	遵守状況
1	廃棄物処理法	処理業者との適正な契約並びに業者の許可証有効期限の確認	遵守
		マニフェスト伝票の管理（法定記載事項、照合確認、5年間保存）	遵守
		廃棄物置場の表示と保管基準の遵守	遵守
		マニフェスト交付状況の知事への報告（毎年6月30日までに）	遵守
2	建設リサイクル法	特定建設資材の再資源化（コンクリート、廃木材、アスファルト等）	遵守
		元請業者の発注者への再資源化に関する書面報告、並びに再資源化実施状況の記録作成と保存	遵守
3	騒音規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、85dB(A)を超えないこと	遵守
4	振動規制法	特定建設作業の事前届出：指定地域内、工事開始7日以前	遵守
		特定建設作業は敷地境界線において、75dB(A)を超えないこと	遵守
5	浄化槽法	毎年1回、指定機関による検査を受ける（11条検査：(ア)外観検査、(イ)水質検査、(ロ)書類検査）	遵守
		毎年1回、保守点検及び清掃の実施並びに記録の作成	遵守
6	消防法	防火管理者の専任（工場・倉庫・事務所は50人以上）及び所轄消防署長への届出	遵守
		消火設備の定期点検、消火器の有効期限少量危険物の届出、点検	遵守
7	自治体との災害時 応援協定	災害発生時に応援派遣する	設備・ 体制確認

※ 紙面の都合のため、主要な遵守すべき内容を抜粋し、簡略的に記載しており、詳細は「環境法規制等一覧表 兼遵守評価記録」で管理している

（2）環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟等は、1件も発生しておりません。

10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年 10月 31日

代表者：西畠 泰司

作成者：山田 恵美

見直しに必要な事項		環境管理責任者の報告	代表者による評価	変更の 必要性
環境経営 方針	環境経営方針に示された 環境への取組の基本的方 向は現在も適切か	環境経営方針は適切であ る	引き続き環境経営方針を変 更しないで続けていく	☐ 有り ☒ 無し
環境経営 目標及び 環境経営 計画	環境経営目標・計画の達成 状況は妥当か ・課題とチャンス、・二酸 化炭素排出量削減、・廃棄 物排出量削減、・水使用量 削減、・製品・サービスの環 境性能の向上	廃棄物排出量削減やリサ イクルで目標が達成でき たので、今後は節電・節 水に取り組み、二酸化炭 素排出量も減らしていき たい	達成できている取り組みが 顕著に見えてきています。 引き続き、目標を掲げて実 践していきましょう	☐ 有り ☒ 無し
その他の 環境経営 システム	・環境負荷の大きな変化 ・法規制等の遵守状況 ・教育・訓練の実施 ・外部からの苦情や要望 ・実施及び運用の適切性 ・緊急事態への準備状況 ・取組の確認並びに是正処 置の状況 ・環境経営レポートの作成 と公表、活用状況	環境経営システム、環境へ の取り組み、環境コミュニ ケーションの3要素を統合 して実践していき、社会か ら信頼される会社として目 指していきたい	社内の経営理念書において もエコアクション21の運営 を詳しく記載しており、 我々の経営にエコアクショ ン21は、必要不可欠になっ ています。継続しての実践 を全社員でお願いします。	☐ 有り ☒ 無し
実施体制	実施体制は効果的であ り、変更の必要性はない か	工事の受注状況で変化す るため、日常的に意識し ていくようにする	実施体制は変更なく、実施 していく	☐ 有り ☒ 無し
前回の代表 者指示事項 のフォロー アップ	各課とも全員で行う意識を生み出していますが、100%の周知には至っていませんでした。教育するベテラン社員たちが諦めるのではなく、継続して教育・実践を推し進めることが、目標達成に近づき成果として表れるのではないかと。			
代表者の 指示事項	経営理念書に記載している通りの取り組みを全社員が意識しての実践が求められます。全社員参加による組織運営をより確実にできる仕組みを創り上げていきましょう。			
代表者の 総合評価 ※	普段何気なくPCや照明において、離席中にすぐに電気を消すといったこまめな活動がまだまだ浸透していない状況でした。大きいところに意識が行きがちですが、普段から何気なく使用している機器や車両の細かいところについても意識して、エコアクション21の取り組み達成率を全員で上げていきましょう。			

※次年度以降への展開を重点に記載する